

## 老夫婦型会話ロボット | 荻野ゼミ | インスタレーション

縁側やお茶の間が一般的であった時代、ゆるやかに流れる時の中で睦まじく会話をしている老夫婦を想定してほっこりするロボットを制作しました。常にゆったりとした口調でロボット同士はとりとめのない会話をしており、おぼつかない会話をしているロボットに話しかけると、それとない返事を返してくれることもあり、ロボットと気の置けない会話を楽しむ事ができます。新しくもどこか馴染みのある、そんな懐かしい雰囲気を出してくれるロボットが来訪者を出迎えてくれます。

## Back to the 山口家住宅 | 松下ゼミ | 映像作品

江戸時代から現代に至るまで、堺市の街並は様々な変化を遂げました。しかし江戸時代初期に建設された山口家住宅は、昔のままずっと変わらずにその場に存在し続けています。このような山口家住宅の400年の歴史を、障子に投影する映像作品として表現しました。障子のマス目ごとに江戸時代、明治時代、昭和、平成のそれぞれが魅せる風景や人物のアニメーションが映り、各時代には江戸時代から変わらない風貌の山口家住宅が佇みます。山口家住宅が現代にとって希少な存在であることを感じとってもらおうことを狙いとしています。

## Designing Nature: Kakitsubata | 井浦崇+大島幸代 | インスタレーション

山口家住宅の主屋が建てられたのは慶長20年のこと。ちょうどその時期、京都では琳派の始祖である本阿弥光悦が家康より領地を拝領し、光悦村が誕生しました。それからおよそ400年。本作品では、琳派の代表的作品といえる尾形光琳の「燕子花図」を音楽に変えて、これまで系譜や技法で語られることが多かった琳派の新たな一面に光を当てています。江戸時代にして既に確立されていた高い精神性と、抽象的思考が結実させたデザインを知ること。それは、同時代に建てられた山口家をより楽しむきっかけになるかもしれません。

## 0099 (堺七まちVer.) | Itoh + Bak | 映像作品

「00」から「99」までの数字が印刷された紙を堺七まち・山口家住宅各所にて撮影している。映像では「00」→「99」→「00」→「99」と永遠に続き、一見同じ映像が繰り返しているように見えるが、1カ所につき10回同じように撮影している。途中で人が通ったり、手でわざとブレさせたり10個の映像には微妙な差異が生まれている。また作られた映像は、PCによるプログラミングを用いて「10の映像の中からの1つの映像を選んで」リアルタイムで編集し、上映している。それら、二つ同時に流された違う組み合わせの映像に対し、観客は同じ「1つの映像」を観ていると誤認する。この「繰り返すように見えて、繰り返していない映像」により「私は先ほどこの映像を観たにも関わらず、観ていない感覚」に気がついた時、誤ったデジャブ（既視感）/ ジャメビュ（未視感）そして、パラレルワールド（平行世界）を感じさせる事を目的としている。

## nanamachigraph | 井浦ゼミ | シネマグラフ

「シネマグラフ」とは、静止したイメージの一部だけを動かすことで、鑑賞者の注意をそこに集めるという表現手法です。その手法を用いた映像作品を、山口家住宅の家屋内にて上映します。時間が止まっているイメージの世界の中で、ただ一人、自分だけ時間が進んでいるような錯覚を覚える。普段の日常とは一味違う、山口家住宅周辺や七まち一帯の風景をご覧ください。

## 堺町家物語 | 堀ゼミ | 地図アプリ + コンテンツ

山口家住宅の魅力発信を目的に特設サイト「堺町家物語」を制作しました。ここでは山口家住宅はもちろん周辺の町家や町家特有の造りを題材とした様々なコンテンツを用意しています。山口家住宅の歴史や見所、阪堺電車道中での楽しみ方、町家のパーツ豆知識などを動画でわかりやすく紹介しており自由に視聴することができます。その他にも近辺にあるお店や施設を中心とした3つの「おすすめコース」を紹介する他、堺市の地図アプリにも触れてもらうことができます。

